南朝鮮海のドレフター（七）

上田白川

今年の漁業狀態―待詫られし一夜

巨濟島長承浦に於て

巨濟島近海鯖漁の沿革を記したる序を以て更らに本年の盛況を記述し些しく海の猛者等が活動振りを紹介仕やう。

巨濟島に於ける鯖漁の根據地は長承浦を筆頭に知世浦、舊助羅の三ケ所で既に九十組からの鯖網隊は乘り込み居るが、之を根據地別にすれば長承浦四十餘組、舊助羅三十餘組、知世浦十餘組にして猶ほ未だ根據地に通知なく來たるものあれば本年は少くも百二三十組には達すべしと想像せらる。

出漁人員の總數は約四千五百人五千人にも近かるべく、之れを地方別にすると長崎縣を最とし山口、愛媛、福岡、廣島、高知、石川、島根、千葉と概して斯んな順序になつて居る。漁具は縛網、巾著網の二ツだが愛媛縣よりする十餘組が縛網を使用しつゝある外は悉く巾著網を用ひて居る。

此近海の漁期は前記せる如く四月中旬より五月下旬に至る四五十日間であるが此中でも氣温高く南の軟風ソヨ〳〵と吹き渡り浪なく潮流靜かなる午前四時頃から十時迄午後は日沒前後と云ふ、而して昨年中に漁獲の最も多かつた時は、一網九万尾の以上にも達し、早朝網を入れて之れを陸上に運搬し終る迄には總員汗水垢となり殆ど不眠不食の有樣にやり通してすら翌日の拂曉迄もかかつた事が稀れならずと云ふ。斯くして獲たる山の如き獲物は如何に處理せらるゝであらうか。昨年の漁獲高八百十万尾の内二分の一は氷藏生魚輸送と爲し殘部は鹽切りとして輸送、仕向地を云へば生魚は其十分の七を馬關に十分の三を博多に送つたさうなが、遠きは九州の奧の奧の人吉、宮崎地方又は大阪方面なる農家の臺膳にも上ぼりたる由。猶ほ本年の仕向地は臺灣の基隆に約二百万尾輸出の計畫遂行中なる計りか長崎縣の渡邊氏、釜山の香椎組並に朝鮮海水產組合、東京水產講習所等は米國輸出を計畫中、殊に渡邊氏は防腐注射を行ひ上海に向け續々輸出するの考へださうな。

漁獲鯖の運搬船としてぬ廿馬力乃至五十馬力の石油發動機船三十餘隻あり、一隻の平均二万五千尾主として氷藏生魚輸送の任に當り、又た二三百噸の汽船は一隻五万尾内外の積載力あり往復頻繁に漁場と内地間の運搬に從事して居る。其他百石積一本マストの帆船五十隻内外ありて一隻三万尾位の積載は容易なるがコは鹽鯖運送の任に當つて居る。

以上記するが如く昨今の漁期中は長承浦に約一個旅團からの壯丁は集中、日々十幾万兩かの寶は海中より水揚げせらるゝので、陸上海上共に其活動振りは覗る目も醒むる計り實に想像の外にある。

此活動を目當に白面鬼の進擊は又た素晴しきものなり、此頃の春暖に襟垢つきたる袷をダラシなく纏ひ、伊達卷姿に黑ズンだる緋モスの裾をハラ〳〵と蹴出しては幾十幾百群を爲して其處邊一帶を彷徨つゝ好き餌食もと鵜の目鷹の目の憎らしき、甚しきは『ヨボ！オツオツよ……』と艀舟を飛ばして碇泊の漁船を襲ふもあり、之等白面鬼に對し當局は健康診斷を決行しつゝあるも如何せん實績は極めて擧らず、船板一枚の其下は此世からなる地獄の生命を的にひき揚げたる實も半ばは之等魔性の者に吸ひ取らるゝのみか、些からず一般漁夫の健康に影響を及ぼすとは實に慨かはしき次第である。

昨日にひき替へ午後に至りて天氣は益々晴朗海上極めて平穩なるが、何として今宵一夜は出動出來ざるに余は待ち詫びし一夜を怪し氣なる旅舘の一室に。夢は忍びぬ、身は吉田丸の上甲板に佇立て群を成せる幾十幾百万の鱗軍を追擊しつゝ。

中學校大運動會

來會者無慮二千餘名

既記の如く總督府立中學校の大運動會は十三日午前九時より慶熙宮構内に於て開催されたり春行いて天稍々暑さを感ずと雖も猶ほ未だ運動の好時節五百の健兒が互ひに技を競ふ樣は頗る壯快なりし來賓には總督代理藤田大尉、石塚長官、小宮次官、明石總長、柴參謀長、小倉主計監、關屋局長、山形中佐、中野、亥角兩警務官、永谷警視其の他學務局員、新聞記者、生徒父兄を始め各學校生徒等無慮二千餘人にして競技は第一回旗拾競走より始り順次三十餘回を演じて晝食をなし猶ほ引き續き演ぜられたるが何れも拍手喝采にて其内最も高評を掉せしは擬蠻レース、盲啞擬馬、輪廻し抽籤レース等の斬新奇拔なるものにて殊に抽籤レースの如きに至りては賑ふる喝采を博し大なるボール三箇を抱いて走するものセメント空樽を差し上げて走せ行くもの等何れも湧くが如き喝采なりし最後に各級選手徒走競爭あり一等四年高田二等一年甲河野三等四年石橋四等二年甲平木五等二年乙飯生六等二年中原七等一年丙谷口の順序に決勝點に到著し何れも隈本校長より褒賞を受け次に敎員養成所生徒の徒步競走、各學校選手の徒步競爭ありたるが此は各校よりの選手競走とて從つて聲援者も多く東洋協會の如きは並いの紫の小旗を翳し校歌を合唱しつゝ聲援せし處は却々に勇ましかりしが選手中には四五人の朝鮮學生も混り居りて一層觀者に興を添へたり競走の結果一等善隣商業學校二等東洋協會專門學校三等同上にて遂に當日の月桂冠は善隣選手の手に落ちたり終つて一年二年の綱引三年四年の兵式體操あり就中他校生徒競走中各小學生の徒步競走及び花の如き小學女生徒のスプーンレースは却々に愛らしかりき午後五時長き初夏の日脚の仁王山頭に傾きし頃散會せるが當日は來賓一同に茶菓の饗應ありたり

放蕩息子の弱點に附け込む高利貸

內地人の面汚し也

高利貸の殘忍なることは今更云ふも野暮なれど內地人の金貸が兩班の放蕩息子の弱點に著け入り僅々五百圓の金を貸すに利子手數料等種々なる口實を設けて二百五十圓を前引して貸與せりとは又言語同斷の極みならずや京城中部孝橋九十六統七戶兩班權重鎰（四七）の長男權泰勳（二七）と云ふは大の放蕩者にて常に西大門附近の妓生家に出入して遊蕩に耽り殊に妓生梨花と云ふに現を拔かし徹夜の如く血道をあげて通ひたれば誰しも詰まる廓の金に勳は早や首も廻はらぬ仕儀に攻められて愈々自棄となり何んとかして金を作らものと考へ居る中南部會洞の吳聖煥東部東學洞正三品劉銘項（三七）と出合ひ借金の相談をなしたる所右兩名は知合の金貸しあれば世話すべしとて四月二十七日竹園町三丁目九番戶金貸周旋業猪口金一（三三）方に連れ込み泰勳の父重鎰の名前を僞稱して五百圓借用のことを申込みたり金一は年若の兩班と聞き近頃になき餌物なれと其の日は其儘に分れ府廳其の他に就いて權家の財產を調べたる所可なりの不動產もありと見て取るや彼は爪を磨ぎて奸計を廻らしたれど己には百圓の金もなければ櫻井町にて曖昧屋を營む柳田仙吉（三三）を通じて龍山元町なる黑田幹之介より五百圓の金を引出し五分の利子にて約束手形にて泰勳に貸し與ふることになしたるが金色夜叉の惡辣手段は之からにて翌廿八日愈々五百圓を渡す筈なれど彼は却々に渡さず前記二名の周旋人及び通譯卞細純（二八）金東允（三）等八名を引き連れ永樂町桂月樓にて酒宴を催し又廿九の日夜は前記柳田方にて關係人一同は酒宴を開き總は金一は酌婦鷹鳥なを（二七）を對手とし借主泰勳にも女を當てがひ宵遊興に耽けり二回に三十圓を費消したるを五百圓の內より仕拂ひたる上金一は手數料として百圓を差引し吳、劉の兩人は保證料として五十圓通譯料として卞金の兩人は二十圓をせしめ尙此外金一は二箇月分の利子五十圓を取り柳田と分し都合合せて二百五十圓を全額五百圓の中より前引して五百圓の約手と引換に二百五十圓を泰勳に手渡したるが酒色に耽溺して遂に救ふべからざる泰勳は父の名を僞名せる弱身あれど愚にも二百五十圓の金を受取り其色香に溺れたる妓生梨花の爲に百五十圓を投じて衣類其他を買ひ遣り殘り百圓にて酒興に狂し居たるより此は怪しと北部警察署の刑事に睨まれ取調べられたる所其の間に潛める上記の顛末判明したれば猪口は橫領罪泰勳は私印盜用にて其の他の關係者も今尙嚴重取調べを受けつゝあるが金一の如き醜漢あればこそ鮮人中に尙內地人を嫌厭する者を出するなれ現して彼れ金一は豫備少尉正八位勳六等なる肩書あるものと聞きては其憎みも更に加はるなり

芹摘み

東京相撲五月場所勝負豫想投票

東京相撲五月場所は愈々近かく開始龍攘虎搏の壯觀は國技館內に演ぜられんとす本社は例に依り汎ねく好角家に左記十五組の勝負豫想投票を募集し全部的中者十名に紀念賞品を贈呈す

一、投票は必ず葉書に限り勝、負、分、預と明記せらるべし
一、投票締切期は國技舘開始日とし發表は打揚の翌日とす
一、紀念賞品は橫綱以下新番附東西幕內全部力士の特製繪葉書（四十二枚）一組宛とす但し的中者十名以上ある場合は抽籤に依る
十名以下なる時は最も近きものを取る
一、投票者は必らず宿所姓名を明記せらるべし然ざる時は無効とす

常陸山（駒ケ嶽（西の海（朝汐（小常陸
梅ケ谷（太刀山（國見山（鳳（伊勢の濱
綾浪（相生（大の川（山泉（龍ケ崎
黑瀨川（千年川（大鳴門（玉椿（鶴渡
紫雲龍（雲龍（近江富士（佐賀の海（十三の浦
土州山（玉手山（八甲山（大蛇潟（梅の花

▲正誤　昨紙本記事番組中西の海に駒ケ嶽とあるは西の海に國見山の誤り

飛行發動機嚆矢

（十三日午前十時廿一分東京支局特電）

日野大尉自から監督して製作中なる飛行發動機及び單葉飛行機は總ての工畢りたるを以て一兩日中に試驗するよし是れは我國に於て發動機を用ゆる嚆矢なり

敗德僧侶捕はる

仁川署の刑事に

去る五日仁川敷島町朝日樓にてとし子を揚げ同夜十二時より更に第二敷島樓に至りてきよしを敵娼として大散財をなす自稱服部良三（二七）と云ふ奴の擧動不審の廉あるより六日朝仁川署の坂下今井の兩刑事が出張本署に同行して嚴重に訊問せしに此奴は山城國宇治郡宇治村黃檗宗務本院の僧侶首藤諦音（二七）と云ふものにて客月二十七日住職近藤德寧より木幡郵便局及び京都某銀行の小切手金二百圓及び郵便爲替金九十七圓三十七錢の受取方を依賴されしを全部拐帶して逃走し三日釜山に上陸し五日京城旭屋旅館に宿りて新町遊廓にて數十圓を費消し同夜仁川に來り稻田旅館に行李を卸し直ちに腕車を敷島に飛ばして遊興したる旨逐一自白したれば目下野村警部の手にて嚴重取調中

一萬圓舞ひ戾る

金鶴鎭男の喜び

男爵金鶴鎭氏の執事李思欽（三七）と云ふが男爵家より田地購入の爲め委托されたる手形一万一千八百圓を橫領拐帶し漢城銀行にて現金に換えて逃亡したるより同家にては直に水門洞分署に訴え出で同署にては直に各地に搜査の通牒を發したる所十二日思欽は鄕里廣州郡に歸らんものと分浦塲に至りし所同地憲兵分隊にては通牒に接し居たれば直に取押え取調べたるに思欽は一万千八百圓の中僅かに十圓を費消したるのみにて他は總て懷中しあり水門洞分署よりは郡司刑事直に犯人受取りの爲め水原に出張したるが此の報に接し金鶴鎭氏は非常に喜びたりと左もあるべし

大阪相撲の初日

初日は十九日となる龍山練兵場前空地に於て開催すべき同地和歌の家主人勸進元の大阪相撲大木戶岩友一行は十五日初日の筈なりしも好人氣の爲め各地共日延べ興行を爲し從つて乘込み遲延せしが愈々十八日乘込み十九日初日開場する筈なり

永登浦監獄脫監

又々永登浦監獄に脫監者ありたり十二日午後三時頃同獄に收監中の竊盜犯山口縣吉敷郡小郡町新町小松與十（三十）と云ふが看守の隙を窺ひて便所の窓を破りて脫獄逃走したるが與十は日本滿州を荒し廻り遂に朝鮮に入りて諸所荒し廻りたる不敵の曲者にて目下嚴重に其の行衛取調中

寧邊に豹狩はる

平安北道寧邊郡に近來豹出沒するを以て警戒中の處四月廿六日同郡泰示面の金應鉉の曾孫女が死亡して附近の山中に埋めたるを發きて喰ひ盡したることを發見し目下同地の官民は捕獲の計畫中

分署から逃出す

東大門分署に竊盜犯として收容中の安洪俊（二七）と云ふは十三日午後三時より四時までの間に看守の隙を窺ひ留置所を脫け出で逃走し目下行衛搜査中

讀者文藝

（一等五十錢　投書歡迎）

俳句（二十五回）暮春　尙州　眠郎

◎禁厭の石割ば貴や果の春
○新鑄の鐘も見る春暮るゝ宿　京城　東人
○行く春を木辻の柳雨糸明き　同　鐵石
○酒の友醉ひ詩の友謳ふ暮の春　平壤　月子
○繪わけて物忘れがて惜む春　春川　風骨
○紅黃の失黃昏に得ん春名殘　尙州　葉雨
○藥酒に代ふ鐘の餘あり暮の春　京城　龍雨
○昼頭の恙なかりし春も行く　同　野花
○見殘しの浪稿も机上暮るゝ春　同　拔山
○行春や紅玉の名を秘め藏す　鎭南浦　玉郎

一等當選者　慶北尙州　眠郎

俳句次回課題『山吹』　締切五月十九日
狂歌次回課題『雨上り』　締切五月十八日
謎次回課題『五月雨』　締切五月十七日
川柳次回課題『蝙蝠傘』　締切五月十六日
俗謠次回課題『青葉蔭』　締切五月十四日
十五日發表『二口噺』
「用紙ハガキ」

閒島の大火公電

九日午後一時三十分開[illegible]下市場より失火し折柄西風猛烈を極め爲めに約三千餘戶を除く外龍井村全部燒失し我郵便局も類燒の厄に遭ひたるが總領事館は無事なりし旨其筋に公電ありたり

仁川港の難破船

仁川元月尾島附近に繫留中なりし長崎縣長崎市浪浦居住金島守（四七）の所有に係る約二十五石積帆船は支那[illegible]二百四十二[illegible]を積載し居りしが干潮に際し海底の岩角に觸れて破口を生じ居りしを氣付かざりし處十三日午後十二時頃滿潮に際し浸水したるに驚き荷揚に著手せしも遂に數十俵は船體と共に沈沒したるが乘組員には異狀なかりき

◎檢疫所移轉中止　仁川大月尾島の檢疫所は客月已に凡ての施設を完了し何時にても移轉し得るも滿洲のペスト病今や殆んど終息の模樣なるを以て當分移轉を見合はす事となりたるが常時は番人のみを置きて閉鎖し必要に應じて開設する事に決定せり因に本年中には經費五千圓を投じて海底電話を布設する計畫なり

演藝たより

○舞踊溫習會　既報の如く花元流舞踊の溫習會は本十四日正午より歌舞伎座に於て開催す今回は前回の如く素人に席を取らしめず全く早いもの勝ちの掛り得なりと云ふ尙ほ番組は左の如し
ゆき（藤岡なみ）白拍子（さよの）淺くさもめ）黑木賣（綠川さみ子）瀧つくし（光昇櫻菊子）髮奴（石木松子）仕丁（原田よしの）供奴（光昇櫻りん子）夜まはり（中川花子）かなわ（光昇櫻靜子）山姥し娘（石木松子）晒女濱龍（綠川さみ子）八重桐（光昇櫻菊子）足柄山（同靜子、太郎）狂亂浦しま、さよの、島臺引拔濱の上（鵜田かなめ）忠四力彌（清華亭三吉）羽根摑禿引拔鳥羽繪（中川花子、光昇櫻りん子、太郎、さくら）一人忠信（原田よしの）古御所將門

○竹園館　娘義太夫豐竹小糸一座は開演以來初日より大入氣にて每夜札止めの好評を博しつゝあるが三日目今晩の藝題は
御祝儀（小福）壬橋（小眞）儀作內（初音）お駒才三　鈴ケ森（小燕）太功記十（小駒）白石後日（小糸）大切り振り總掛合ひあこや琴責三曲ふしん手踊

○壽座　每夜大入りを博し居る太郎會一座本夜の藝題は一番目やもめの出產二番目初旅三番目義狹四番目出世の太鼓にして配役左の如し
喜太八、下女お梅、小倉太吉（千鳥）喜六、彌次郎（千成）番頭伊八、同金三（辨慶）遊人熊三、進之丞（太郎作）清公、萬事世話九郎（蝶太）

○龍山座　大阪娘義太夫竹本水朝一座龍山佐久良座にて開演中の處今十五日より同龍山座にて開演する筈初日語物如左
千代萩御殿場（朝駒）阿波の鳴門（水光）太閤記十段目（千代之助）鏡山五つ目（若千代）播州合邦辻合邦內の段（千浪）菅原傳授手習鑑（玉龍）玉藻前三段目（水朝）切忠臣藏七段目（總掛合）

○浪花館　若遊三一座本夜の出しものは小倉船（若三郎）雪點（若明）たらちね（若之助）二人熊（助六）新內石川五右衞門釜入（綾の助）芝居の穴（圓好）喜劇每夜替り　座員總出）親子茶屋（藤若）歸宅（若遊三）大切所作事電氣應用

商業登記公告

合名會社明治屋ハ總社員ノ同意ニ依リ明治四拾四年四月參拾日解散シ左記ノ者ヲ清算人ニ選任シタリ
東京市芝區伊皿子町六拾參番地　澁谷兼四郎
東京市京橋區銀座貳丁目五番地　北原易
右明治四拾四年五月拾貳日登記
京城區裁判所

賣家廣告

一、木造瓦葺平家建溫室附事務室　壹棟　拾五坪
一、木造亞鉛葺工場　壹棟　四拾八坪半
一、同寄宿舍並に倉庫　壹棟　約參拾九坪

右賣却す
位置龍山漢江通委細本社廣告部に就き承合されたし

京城唯一の藤の花今を盛りと咲き揃ひ候に付御家族御同伴是非一度御賞翫被下度目下普請中にて御接待等不行屆の儀は御宥恕被下度候
京城永樂町二丁目
酒道樂（電話貳七六番）

第四回決算報告

貸借對照表

資產之部

科目	金額
未拂込株金	七五〇、〇〇〇・〇〇〇
貸付金	參壹六、壹九六・八七〇
預付公債	四、六〇〇・〇〇〇
預ケ金	六、四九參・壹八〇
[illegible]	六、八七五・〇六五
苗圃	參五、九八參・七五貳
農產物	四、四九參・四貳〇
假拂金	六參五・六六〇
土地	四〇、六參貳・九參壹
建物	參參、〇六〇・壹四四
營業用土地建物	壹九、四五參・參貳八
營業用什器	四、六四貳・〇九五
未收入利息	九〇〇・八壹〇
金銀有高	壹五、貳八〇・參四壹
合計	壹、貳參九、貳四七・五九六

負債之部

科目	金額
株金	壹、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
積立金	壹〇、七〇〇・〇〇〇
別途積立金	五、〇〇〇・〇〇〇
前期繰越金	壹〇、四四參・八〇六
假受金	九五七・九壹貳
借入金	壹八貳、四六六・參五〇
借入公債	四、六〇〇・〇〇〇
當期純益金	貳五、〇七九・五貳八
合計	壹、貳參九、貳四七・五九六

損益勘定

科目	金額
當期總益金	六四、四九參・參貳五
當期總損金	參九、四壹參・七九七
差引當期純益金	貳五、〇七九・五貳八

利益配當

科目	金額
當期純益金	貳五、〇七九・五貳八
前期繰越金	壹〇、四四參・八〇六
合計	參五、五貳參・參參四

此配當計算左ノ如シ

科目	金額
積立金	貳、六〇〇・〇〇〇
役員以下賞與金	貳、〇〇〇・〇〇〇
株主配當金（年壹割）	貳五、〇〇〇・〇〇〇
後期ヘ繰越金	五、九貳參・參參四

右之通リ候也

明治四十四年四月

京城旭町貳丁目百拾壹番戶

朝鮮勸農株式會社

專務取締役　山田桃作
社長　岡十郎
取締役　福島宜三
同　福田幹輔
同　白石鐵二郎
同　藤井啓一
同　白寅基
同　成文永
專務取締役　原勝一
支配人　小野榮治
前記各項調查ヲ遂ケ其正確ナルヲ保證候也
監查役　三輪傳七
同　近藤慶一
同　福田民平
同　林平四郎
同　國重政亮
相談役　瀧口吉良
同　趙鎭泰

全羅北道全州群山間橋梁架設及改築修繕工事右五月貳拾六日入札ニ附ス詳細ハ五月拾參日以後ノ朝鮮總督府官報又ハ當課ノ揭示ヲ見ルヘシ

明治四十四年五月十一日

朝鮮總督府內務部地方局土木課

妻トネ儀葬送の際は御多用中の處態々御會葬被成下奉深謝候何れ拜趨御禮可申述筈に候得共混雜中略儀茲に御禮申述候

五月十二日

眞野景象
友人總代　藥師川常義
佐々正之

◎清涼里の尼寺へ

醉翁

香氣男の香氣な散歩今日一日は晩迄何處へなりと勝手氣儘と決心して足の向くにまかせて行くともう目前に近く清涼里が見へる彼地此地は一面の田圃であるから工事中の京元線の堤防上を辿つて行くと矢を放つた樣な勢でトロツコが來る其れが次ぎへ〳〵と幾臺も來るので危險よりは寧ろ工事のお邪魔を仕てはならぬと堤防を下りると忽ち頭の上から其處を通つては不可ない上を行けツと雷の樣な聲がしたハテなと頭を上げると色の黒い男が睨み付けて居るホイ私等の事かい之れは遠慮の仕そこないじやハイ〳〵上を通れと云へば願ふてもなき事と早速堤上に登つて進むと清涼里に來た昔しとは違つて開化したものじや狹いながらも日鮮人の腰掛茶店が五軒其の內で最も奇拔なのが一軒ある道の中央を四尺四方切り開いて鐵條網を縱橫に張り煤ぶつた鉞力の屋根の放れ座敷中央の卓上には夏蜜柑から林檎が積まれラムネの壜が五六本窓から奧の方を伺ひ奉ればズラリ並んだサバリの七八緒顏白髯眼光輝く老翁が長煙管を手にして徐ろに煙を吐くどうして這入れた話じやない尾花風に閃く大野の內若しも此の樣な家があつたなら其れこそ魔邪もの〻棲家である南無阿彌陀佛を三度唱へて早足で其の前を通り脱け左に取つて山手に入る道は坦々として立派なもの道傍の柳の林には稍々傾むいた日光が縫ふて其の下草の美麗なこと軟かに風が吹いて來ると五葉の松から黃色の蝶が飛んで名も知らぬ白い花の蔭に隱れた右の方へ小徑が岐る〻之れから寺へと敎へられ油繪にあり相な景色の內を進むと猫額の水田の內スツクと立つた朝鮮犬時々頭を下げては何物かと爭ふ風情其れとなく見て居ると南無三犬は小蛇を咬で蛇は犬の鼻の先に卷き著いて居るハッと思ふと妙な感がした犬は少しの身動きもせず靜に頭を上げて一と振り二た振り振り脫れた蛇は更らに卷き著き水に濡れた其の長軀は繩の樣にハラリとして其れが日にキラリと光つて見て居るのも氣色が惡いあゝ不可だと其處を見捨て足早に行くと左方に赤い旗が飜つて表に日章旗を交叉した朝鮮家がある何んでも內では宴會らしい松の林に取りか〻ると其處此處と樹間を逍遙する日鮮人男女の幾群殊に薄水色の裲長ふ林間に隱見す朝鮮婦人の風情は宛然唐畫にありそうな圖だ其れを越すと爪先下りに溪間へ出る下らずと左りに切つて四棟五棟の建物がある之れが清涼寺と云つて有名な尼寺表には佩劍嚴めしき警官が數人房中からは歡話笑聲頻りに聞へ殊に女の聲もする寺中を通り脫て裏口から眺むると今を時めく兩班貴族もの〻十餘人が今宴會の眞ッ盛り坐中を縫ふて白衣翠袴の官妓とやら云ふもの盃を進めて獻酬將に酣なりと云ふ處だ拜し奉れば大分見知りの人々も居たので之れはお邪魔と取つて返せばジヤン切り頭の尼さん達が夕餉の仕度と云ふ風情只ある一寺に水を乞ふと老尼は出で〻丁寧に迎へ清水を與れた哀れに頹廢した此の寺の模樣人は顏色憔悴として薄暗き佛壇の燈光に輝く金色の佛陀逢魔が時の星とも思はれ燒香の煙一縷白ふ蛇の如く囘つて搖て末は消へて只だもう濡つぽい樣な心地浮世を捨てねば何うしても此の樣な處には居れない遮莫孱弱女の身の如何に捨世の業とは云へ春花秋月時には昔時を偲ぶ事もあらう

憶昔丰茸一代名、翠眉花臉擅高評、只今憔悴無人問、獨坐禪房不耐情、

同行の山下君が妙な顏をして居る何した問ふと其處に味噌があつたので烏渡味つて見たら却々美味かつたと云つた見れば瓮に澤山唐辛味噌が詰めてあつた話は唐辛は大の不可じや寺を辭して門に出た何處からか嬌かしい話し聲が聞へて來るフト見ると松林の間から鮮人の若い男女が何事か樂し氣に打ち語らひつ〻來る溪間に下て水を汲んで居た不潔姿の一人の老尼は其れと見ると急に水を汲む手を止めて急いで坂を走せ上つて寺中に姿を隱した何故だろう其の見る影もない裝姿が恥かしいのであろうか其れとも來る人を嫉んでが或は舊時を追懷したのであろうか

林間小逕笑聲頻、汲水老尼衣結鶉、驚走入門君勿怪、殘花又是不堪春、

あ〻世の中は樣々じやドレ最ふ歸りませう迪る城外の夕景も亦却々に捨て難い。

◎京城禁酒會例會　京城禁酒會は來る十五日午後七時半より旭町二丁目日本メソヂスト敎會堂に於て會員總會を開き會務及び會計報告、會長役員の改選を爲し後に親睦會を催し某紳士の薩摩琵琶の餘興ある筈なりと

五月十五日 九星

舊四月十七日 乙酉　本命六白　乾定　友引

●六白 不審な事多き日新事見合南方は吉暗劍●乾●七赤 繁昌の日轉居旅行入學名弘金件出漁求職婚禮猶豫等萬吉●八白 すこやかなる日轉居入學金談繩組求職棟上不聞久病の藥を得る等萬吉●九紫 謹の日新事手控當の事は吉小兒衛生誘惑注意●一白 眞業を得る日轉居行商求職名弘金件入學嫁娶取商標か定る等萬吉●二黑 位の進む日轉居入學等皆進で利有り女子の望以上の立身を爲す願振ふべき日也●三碧 爭を生じ安き日穩和を守り新事手控の方吉蓄事農蠶け妨なし●四綠 日午前不印午後は吉新事手控女難散財を防がるべし●五黃 調子よき日轉居旅行入學名弘金件建築嫁娶入美術金銀商を始る等皆吉

五月十六日九星

舊四月十八日 丙戌　本命五黃八方取　先負

●五黃 六ヶ敷事多き日新事見合南方は吉暗劍なし●六白 首尾よき日轉居開業入學名弘金件求職嫁娶入岩田帶祝等萬吉●七赤 大利の日轉居旅行金件名弘求職建增嫁娶蠶業茶業を始る等萬吉●八白 尊敬られ損の事なし●九紫 親善なる日轉居入學金談求職棟上漁嫁娶入會資組合の事を計る等皆吉●一白 にならぬ事多き日新事手控舊事は吉保證は見合せ女難散財注意●二黑 理に反く事多き日新事手控常の事は吉紹介仲人等を禁す●三碧 平運の日なれど商事不事手控舊事は吉農事土工は妨なし●四綠 利を爲味する日新事手控舊事植林の事は吉

▲京城案內申込所

京城大和町京城日報社案內廣告係宛

東京市京橋區日吉町四丁目　東京支局
大阪市北濱四丁目　大阪支局
門司市棧橋通　門司支局
釜山港大廳町　釜山支局
仁川山手町　仁川支局
平壤旭町　平壤支局
大邱府東門內　大邱支局
安東縣濱橋筋　安東縣支局
京城太平町大漢門前　盛文堂
同本町三丁目　田文林堂
其他各地販賣店

京城案內

諸物件賣買(一回迄一回金八十錢 以上一回金七十錢)

電話(二〇)至急讓受たし希の方は電話壹五參〇番又は羽衣町七三濱元桂次郎へ照會ありたし

雇入(四回迄一回金三十錢 五回以上一回金二十錢)

店員(一九)年齡二十歲位身体强壯の者二名雇入れたし希望者は仁川電話壹六〇番へ

店員(一八)齡十七歲より廿三歲迄身体強健の者當地にて保證人を要す至急來談 京城竹園町一の一七竹內

乳母(一〇)乳澤山ある乳母大至急雇入れたし希望の方は下名へ 大漢門脇(大昌洋行)エル、ロンドン商會

募集(九〇)コック、見習ボーイ十七歲以上二十三歲迄の者 京城南山町 京城ホテル

募集(九〇)男女外交員最も簡易の事務手腕により月收五拾圓以上 南山町一九九の六 綴喜

入用(九二)新聞配達經驗ある者二十歲以上二十四歲迄當地にて保證人を要す希望者は仁川電話四十五番へ

募集(九八)簿記英語數學清語個人敎授す詳細午後來談 壽町一の四四商業會議所東橫 集時修學館

入用(九六)多少勞働に堪得る廿五歲迄の小間物行商人入用希望の者は京城壽町二丁目國分旅館に至急來談あれ

地所家屋貸借(四回迄一回金三十錢 五回以上一回二十錢)

貸家(三)竹園町本通日本建四間玄關付電話土藏屬す宅地數十坪紳士商店向に好適望の方は本社廣告部へ

貸間(五四)極清潔なる貸間數多有便宜上破格の廉價にて辨當の仕出し御用達可申候旭町二電一四〇三廣瀨

貸家(九六)畑地六百坪家屋十二間鳥小屋倉庫菊室有望の方は下名の番人に御問合あれ獨立門通獨立館後黑門內

被雇度(四回迄一回金二十錢 五回以上一回金十錢)

被雇(一〇八)商科技術員又は代診を望む實地に多年經驗あり廿五歲(姓名在社)

被雇(一〇四)年廿九歲商學修了洋酒舶來食料品附屬雜貨多年從事同商店ホテル用度課志願確實保證姓名在社

被雇(八六)算筆を能くし實地商業及會社商店に望む南大門外統明館內近藤

地所家屋店舖及び賣買(四回迄一回金六十錢 五回以上一回金五十錢)

賣家(九九)地所附鐘路附近邸宅廣紳士住居會社病院料理店等好適御望の方は三角町中央舘電話一〇六七番

賣家(八二)付賣物御望の方は旭町二丁目十五番戶電話一四五六番へ

賣地(一〇七)東小門外一里有利有望就中園藝に適す田畑十餘町直接賣知 敎化門前泥洞の二 綠光號典當舖

雜件(四回迄一回金二十錢 五回以上一回金十錢)

下宿(七)朝鮮總督府醫院御指定 黃金橋通り ちよし(電話二二六九番)

求資(八三)從來と異る有利精米事業にて三割優先配當權を渡し出資額に年三分月卅圓以上支給(姓名在社)

◎下田歌子女史の　お化粧觀!!

日本では化粧を絶體にいけないといひ消すことのできないわけがある。それは女は他に素顏を見せぬものだと敎へられてゐる。又御殿女中などは、紅白粉をつけるのを一種の禮儀となし、

△素顏は不吉の時に限る

といふ慣例があつたので、斯ういふ習慣に馴れて來た老婦人などが、孫女などに敎へて、是非チヨツとでも化粧せよ、女の嗜みを怠るなといふ。これらは恕すべきものと思ふ。が今一つは、賤しき婦人のあるものなどを見習つて、自分もあやうに美しくなり、他に美しいと見られようといふやうな、即ち、立派な敎育を受けてゐる人には似合しからぬ、極めて卑しい心を以つて化粧するものがある。しかし

△禮儀と脂粧

との區別はチヨツとつき難くある。そして白粉を濃く塗るのは、皮膚の毛管を塞いで不衛生である。また外見からいつても、朝濃くつけた白粉が、午後になれば鼠色になつたり、小鼻や眼の縁にばかり殘つて、處まだらになつてゐるのは、誠に醜いものである。けれども

△美は女の命なり

といふ諺もあるほどであるから、一人前になつてから、殊に、人の妻となつた若い婦人などは、身分相應に粧うのは、決して惡くはない。

以上は下田歌子先生が婦人世界花の卷で述べられた、お化粧觀の大略である。

ところで、右の中、白粉を濃く塗ると皮膚の毛管を塞いで不衛生であるといはれた、成程在來の舊式白粉で濃化粧をすれば不衛生であらう。然し最も進歩した化粧料を用ひれば、例へ濃化粧にせよ皮膚の害にはなるまいと思ふ。況んや薄化粧に於てをや。要は白粉の撰擇によつて生ずる問題である。

△新たに生れた

レート白粉は、即ち完全無鉛、最も進歩した善良な白粉であつて、和洋白粉の長所と短所を巧く取捨したもので、ノリも、ツキも思ひの儘、第一何時たつても化粧くづれのする樣な事はない。夫れに皮膚に有効な原料が配合してあるから、先づ以つて今から後の理想的白粉である。配次ぎに、何も化粧をしないのは、却つて美しいものだといはれたが、四季の變り目に、薄紙のやうな女の肌が什麼して保たれやう。朝な夕な、脂肪性の人なればレート乳白化粧水、荒性の人なればクレームレートを塗ければこそ

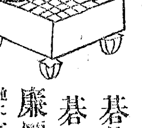
△常に美しく成つてある

ので、是即ち自然美を助長する所以である。故に現代敎育ある御婦人にて美名高きレート若しくはクレームレートを愛用しないものは一人もないのである。

朝鮮向改良農具
專賣特許 鶯形稻扱器
新案登錄 完全鍬
其他改良農具園藝器具
神戶市兵庫管原通三丁目 日本農具製造株式會社
京城本町十丁目六拾九番戶 販賣特約店 三輪商會

仁川海岸町三丁目 米豆取引所仲買人
倉重悌輔商店 電話六〇二番
多少に拘はらず御用命を乞ふ 確實敏速
京城南山町三丁目三番戶 米穀株式仲立業 倉重支店 末富榮之助 電話九六五番

土木建築、土地、鑛山、測量
設計製圖、土地建物調査
京城旭町一丁目百八十番戶(電話一七六九番)
小川工業事務所 主任技術師小川安藏
諸工事の請負は月賦償還にて可應候に付多少遠近に拘らず御用命次第事務員出頭可爲致候


碁將棋盤 碁石製造 廉價販賣 並に修繕
御注文の節市內は御報次第早速參上御用向相伺可申候也
京城壽町三丁目 植杉商店 電話一五七六番

支店主任募集 專門藥販賣業全般
朝鮮木浦、鎭南浦に支店增設に付募集す
◎支店主は一家族支店內に往居せしむ
◎支店主は參拾歲以上の有妻者に限る
◎支店主任は六百圓の保證金を要す
◎月給は五拾圓以外に特別配當金あり
企望者は釜山南濱通貳丁目滿賣藥 釜山商會方に申込あれ
大阪三休橋北詰 ド[illegible]店

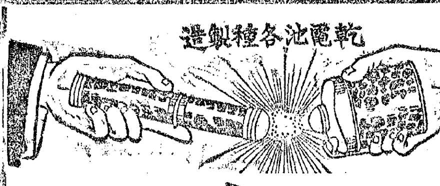
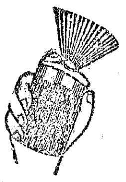
朝鮮京城黃金町三番地 京城高等演藝館 電話一四三四番
模範的活動寫眞常設館
第卅四回五月十五日寫眞全部差替
○塗り佛 ○田吾作江戶見物 ○八ばらい ○尻振、傳染 ○痛蒙り ○惡意の婦人 ○戀の夜嵐 ○尻から火事 ○客氣男夢想 ○時計の身涙 ○シリヤ人戀仇 ○馬の尾大滑稽 ○日本劇 ○とんちんかん ○鎧武者人形
(每夜八時開場)

出張映寫音樂隊招聘の御相談に應じます

大阪府元町一丁目
御旅館 敷嶋旅館
並に高等下宿(電話三九番)

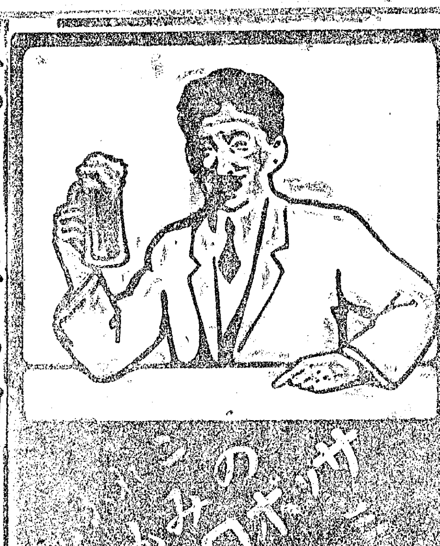
都の花石鹸

獸醫學士 原島善之助氏校閱
肥塚正太郎氏著
朝鮮之產牛
大判全一冊 正價五拾錢 送料六錢
大好評忽再版
本書は朝鮮の產牛事業に就ての最も精細確實なる研究也
見よ讀め 當業者の好顧問 開拓者の羅針盤
東京京橋區南傳馬町 振替東京六九六 有隣堂
京城本町二丁目 振替東京九〇五九 日韓書房

乾電池各種製造


特價大割引

大探見電燈	一圓八十錢	替電池 四十錢
中　同	一圓六十錢	三十八錢
大懷中電燈	一圓七十錢	三十八錢
小　同	一圓二十錢	二十五錢
鞄入電燈	五圓	自轉車電燈 七圓

◎官衙、會社、工場、廣き邸宅には便利なる私設電話及電鈴の設備を勸告致候
◎電話、電鈴、表示器避雷針新設及修理致候
京城旭町三丁目本町角二軒目(三日月旅館通)
越田電氣商會 電話一四三〇番



噫!理想的催眠法
本會最近發見施術法は一秒か二秒の瞬間に感應し催眠球其他手數を要せず
●詳細はハガキにて申込次第進呈
大阪市東區高麗橋五(電話東四八三弐)(振替大阪二弐一五) 精神科學會

金三圓八十錢均一
◎海獸ポープス革(海豚)ハ防水防寒柔軟ニシテ永久龜裂硬化セズ耐久力ニ富ム
◎御注文ノ節ハ御常用日本足袋文數御通知ノ事
◎御買御希望ノ方ハ御照會次第直ニ回答ス
營業品目錄寸法用紙御申越次第送呈ス
東京市芝區愛宕下町四丁目 電話芝二三〇二 振替東京二二七八 龜田靴店

木材板類 座敷廻り材料 鴨綠江製材類
廉價販賣
京城旭町一丁目電話(長)七四四番 小森商店